

(議長)

次に、小梅議員の発言を許可致します。

(議長)

小梅議員。

「小梅議員」

はい。えーと、私からは2問目質問させていただきます。

まず、防災情報伝達システムについてお伺い致します。広報2月号で伝達システムの住民説明会の案内がありましたが、えーと、広報配達になってからちょっと2、3日しか経ってなかったもんで、急な日程でしたので、出席出来ませんでした。

えーと、その時、3ヶ所での説明会だったようですけども、何人ぐらいの参加がございましたか。それから、今後もまた説明会の予定はあるのでしょうか。まず、お聞き致します。

えーと、私達の愛宕町内会の総会の時でも、その事が話題に上がりました。中には町内会長さん初め、何人かの方が説明会に出席なさってたようですが、出席したんですけども、あんまり分からなかった。でも、とりあえず自分は係の人に初期の設定だけは、して貰って来た。なんかそういうような話で盛り上がってましたけど、ん、これだったら、まあ高齢者の人にみんなに広く理解を得るためには、時間を要するだろうなって私は感じました。大事な情報を受けるための初期設定が出来ないのです。若い人には簡単に出来る事でも、高齢者には難義なことです。

ちなみに、私は、まちカフェ江差の地域食堂の折に、ボランティアで参加していた高校生の人から、あのスマホへの初期設定をして貰いました。操作が早くて、本当に感心しました。何かマジックをみてるような感じで見てました。

そこで思ったんですけども、提案させてもらいますが、江差町の生活支援整備事業の中で、住民主体の各団体、ネクストイノベーションの事業があります。そこでは、高齢者を中心に置き、支援活動を行っています。多種多様な能力を持った、たくさんの方々が集まって活動しています。その団体と連携してみませんか。

それと別に、コミュニティプラザエコーで事務所を構え、置いておる江差ベースプラスワンでは、スマホ教室を開いています。併せて、電動システムの初期設定に繋がれば良い効果が出るのでは。

更には、エコーへの人流に繋がり、賑わいが広がれば、それもまた大変嬉しい事だと思ってます。担当課、担当課の意見を聞かせて下さい。

(議長)

町長。

「町長」

小梅議員の1問目、防災情報伝達システムのご質問にお答えを致します。

はじめに2月3日、5日に水堀コミュニティセンターと江差町役場、南が丘ふれあいセンターで開催した、えー防災情報伝達システムの説明会の参加人数は、3会場で合わせて37名でございました。

小梅議員から、この説明会、小梅議員からこののちの説明会開催についてのご質問でございましたが、要望があれば適宜開催をしたいと考えており、既に柏町団地町内会、楸川町内会で開催したほか、3月12日には、小黒部町内会で開催することとしております。

また、ご提案頂いた各種、各団体ネクストイノベーションとの連携でございますが、えー多種多様な方と連携を持つことで、コミュニティの広がりや醸成にも繋がると考えております。

3月2日、エコーにおいて開催された江差ベースによるスマホ教室においても、情報防災、情報伝達システム初期選定について説明を行ったところでございます。

えーこのシステムは、災害時に緊急情報を迅速かつ円滑に住民へ伝達し安全安心の確保に繋がる大事なシステムでございます。

今後も役場だけではなく、関係機関と連携して、あらゆる機会を通じて普及に繋げて参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

小梅議員。

「小梅議員」

ありがとうございます。えーと、早速、エコー方でも集まってくれたようで嬉しく思います。

そこで、あのベース、あのベースとかネクストイノベーション所管の高齢あんしん課の方ではどういうふうにお考えか、お聞きしたいと思います。

(議長)

高齢あんしん課長。

「高齢あんしん課長」

小梅議員のご質問にお答え致します。

えー近年、高齢の方がスマートフォンを使っていることは日常的な事になって来ております。しかし、なかなか使いこなせない事や、えーテレビや新聞で報道される犯罪等に巻き込まれる事件などもあり、新たな動作をする事は高齢の方にとって、とても負担になることも多いと感じております。

そのような状況を踏まえ、江差ベースプラスワンにおいて、スマホ教室を開催する

運びとなった経緯もございます。えー今回の、えー防災情報伝達システムの導入を機に、えー高齢の方々にベースを活用して貰う事は、そういった面でも議員おっしゃる通り効果的だと考えます。

また、当課のみならず、えー担当課、担当の総務課と、えー連携をしていく良い機会でもあると考えます。スマホ教室で、えー担当課によるシステム導入の支援や、えー支援を行える担い手の方も増やし、ベース本来の支え合いの構築の場となるよう今後運用して参りたいと思います。

また、ネクストイノベーションでもインスタ等の分野に長けているチームもあることから、そのチームを中心に導入支援の相談をしてみたいと思います。えー高齢の方のニーズに応える住民主体の活動となるよう、えー課としても取り組んで参りたいと思いますので、ご理解のほどお願い致します。

「小梅議員」

分かりました。

(議長)

小梅議員。小梅議員。

「小梅議員」

はい。

(議長)

小梅議員の1問目の質問で、町長の方でちょっと答弁漏れがあったみたいなんです。

「小梅議員」

はい。

(議長)

町長。

「町長」

すいません。先ほどですね、えー町内会の説明の中で、3月12日に、いー小黒部町内会で開催するというふうに申しあげましたけれども、3月12日、上小黒部町内会、そして下小黒部町内会合同で、えー説明会を開催するという事で、訂正をさせて頂きます。よろしくお願ひします。

(議長)

はい。

「小梅議員」

じゃあ、ベースの方でもまた引き続きよろしくお願い致します。そういうふうに関場の中でも違う課と提携したり、色んな町民とも広がりも出来て、そういうのがずっと広がっていけばいいなって、それが支え合いに繋がると思いますので、私方もこれからも期待しています。よろしくお願い致します。

それでは第2問に入ります。えーと、第2問はですね、江差追分条例の推進についてでございます。

江差追分に町民みんなで親しもう条例は、平成29年より施行されてますが、有効に生かされていないように思います。江差追分の支部数とか、会員数も全国的に減少傾向が続いています。日本遺産の根底にもなっている大事な文化を衰退させないためにも、地元町民の間で機運を高めて行く必要があると思います。

えーと、小さいことですが、今年の町民新年交礼会の席上、交礼会式次第のしおりの下半分が追分条例の前文が書かれていました。条例の目的とか、町の責務とか、団体の役割、町民の協力など、細々と書かれたのが載ってました。改めてその条例を目にして、追分の魅力に心酔しながら、追分関係者の参加が少ないなって事にちょっと戸惑いました。以前は追分協議会、各道場の会員の参加で合唱したり、賑わっていたことを思い出し、違和感を覚えました。追分協議会宛には、交流会などの参加案内書は出しているのでしょうか。

また、追分の出前講座は、今後も続けて行くのでしょうか。他に何か計画がありましたらお知らせ下さい。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

小梅議員の2問目、江差追分に町民みんなで親しもう条例の推進についてのご質問にお答えを致します。

この条例は、町内が一丸となって、江差を追分の普及、保存伝承及び発信に努めることを目的に制定したものであり、江差追分は議員ご指摘のとおり守らなければならない町の宝でございます。

これまで町内にある団体向けの追分出前講座など、江差追分会と連携しながら普及宣伝のための取り組みを実施しております。

議員からは地元町民の気運を高めて行く必要があるとの事でございます。引き続き、えー追分出前講座を実施するほか、広報紙を活用した追分の紹介、江差追分の出演派

遣など、江差追分という唄がマチの宝であると同時に、町民の身近な存在となるよう多方面から検討して参りたいと思っております。

また新年交礼会に、の件に関しましては、令和2年まで合唱を行ったところですが、コロナ禍の影響もあり令和4年から江差追分会へ依頼し、現在の形となりました。えー今後は議員のご指摘のとおり以前のような合唱に戻すことも含めて検討して参りたいと考えておりますのでご理解頂きたいと思っております。

(議長)

よろしいですか。

「小梅議員」

追分会の総会の折にですけどね、あの一札幌の方がツカツカッと来て、色んな話をしながら、えーっと、江差をもっともっと追分に力を入れるべきだよねって。

そして、言ったことは、議会なんかでも、議会の始まりはベルではなくて、尺八を流してソイソイで始めた方がいいよ、なんかそう言う事も言われました。あ、みんな色々考えてくれてるんだなと思って感心して聞いてました。

ただ聞くだけでしたけど、これからまた色んな事でみんなと相談していかなきゃないのかなと思ってます。

とりあえず私は、今一番先に簡単にできることは、うーんと、いつも、あの一議員会の方で、この定例会の後に交流会みたいにやっていますけど、その時に、ちょっと追分出前講座でもやったらいいのかなって、それは直ぐ出来る、出来そうだなってそのぐらいのことを今考えてますけども、んー如何でしょうか。

「塚本議員」

それ議員会で。

「小梅議員」

それは議員会の事ですから、これ関係ないと思えますけど、ま、後から考えてみたいと思えます。ありがとうございました。終わります。

(議長)

以上で小梅議員の一般質問を終わります。